～人権はみんなが持つもの守るもの～

川西人権協だより

2024 1

編集・発行 川西市人権教育協議会 〒666-8501 川西市中央町12-1（人権推進多文化共生課内）

第３６回 川西市人権教育研究大会開催

テーマ　差別の現実から深く学び、生活を高め、未来を保障する教育を確立しよう！
人と人とのつながりを大切にしながら、くらしと地域に生きる人権文化を創造しよう！

主 催　川西市人権教育協議会　　後援　川西市・川西市教育委員会

期 日　2024（令和6）年
2月7日（水）13:30～16:45

会 場　アステ市民プラザ アステホール
（アステ川西 ６階）

日 程

13:00	13:30	15:00	15:15	16:45
受付	全体会・記念講演	休憩・移動	分科会	

記念講演について

「いかに部落差別を解消するか」
～子どもを差別者にしない～

講　師　神原（かんばら）　文子（ふみこ）さん
社会学者（博士）・専門社会調査士

大学教員として、生活者の視点から、さまざまな人権問題について、問題提起をしてこられた神原さん。差別は人が作ってきたものであり、人の力で無くすことができる。それには、教育の力が大きい。学校教育・家庭教育・社会教育、私にもあなたにもできることがある。私たちの子どもを差別者にしない教育を・・・神原さんのお話は、わたしたちの人権啓発や人権教育の実践への良いヒントになるはずです。

神原さんのプロフィール

・京都大学大学院博士後期課程社会学専攻単位取得満期退学。博士（社会科学）
・専門は、家族社会学、教育社会学、人権問題
・長年、大学教員として、生活者の視点から、夫と妻の関係、離婚、ひとり親家族の貧困、被差別、生きづらさについて、現代家族とジェンダー不平等について、さらに、部落差別問題、子どもの人権問題についても、問題提起をする。

これまで、大阪府、大阪市、奈良市など、複数の自治体におけるひとり親家庭の自立支援策検討会議に関わり、民間のひとり親支援団体とも繋がり多くのひとり親の方々や子どもたちと関わってきた。また、複数の自治体の「人権に関する市民意識調査」の分析を担当し、独自に差別の要因分析を行い、分析結果に基づく人権学習・人権啓発の課題について問題提起をしてきた。

10年ほど前から、大阪を拠点とする「公益財団法人きずな育英基金」において、大阪府内のひとり親世帯で育っている中学生・高校生に奨学金を給付したり、交流会を催したりしながら、子どもたちの夢の実現を応援する活動にかかわってきている。

2020年3月末に神戸学院大学を定年退職後、一社会学者として、だれもが安全に、安心して生活できる人権尊重の社会づくりをめざして、執筆や講演活動をしている。

分科会分科会について

4年ぶりに分科会も開催し、実践報告や討議を行います。

分科会は5つ開催し、就学前教育部・小学校教育部・中学校教育部・高等学校教育部・特別支援教育部・進路保障部・小学校区人権啓発推進部・PTA連合会・行政部からそれぞれ実践報告や問題提議が出されます。

詳細は開催要項をご覧ください。

全人教研究大会　参加レポート

11月25日（土）26日（日）第74回全国人権・同和教育研究大会が、兵庫県・京都府・大阪府・大阪市で合同開催されました。今年は人数制限もなく、47年ぶりの地元開催（前回は、1976年第28回大会・神戸市）でもあり、川西市からは36名が参加されました。

ここでは、参加された会員の皆さんの感想から一部を紹介します。

●ドンドドーン　ドンドドーン。地元小学校6年生の太鼓の演奏で大会の幕が開いた。ニコニコと友だちと顔を見合わせながら演奏している子、少し緊張しながらも一生懸命に演奏している子、どの子も歓迎の気持ち一杯の太鼓の響きが会場に広がり、あたたかな雰囲気の中でスタートした。

また、今回は全同教結成70年の節目と同時に兵庫県人権教育中央大会も兼ねて明石市立市民会館（アワーズホール）をメイン会場として、新型コロナウイルス感染拡大から4年ぶりに人数制限のない大会となった。

午前中の開会行事に続き、午後は長田南小学校での第1分科会第7分散会に参加した。その2本目は地元西宮の深津中学校の発表だった。『深津中学校の人権・同和教育について～多様な人権問題の解消をめざして～』のタイトルで、毎月定期的に行われる近隣小学校との会合を柱に、小学校から中学校までの9年間を見通した連携を重視した実践が報告された。その中で「西宮の教育は、同和教育に始まって同和教育に終わる」と力強く話されていたのが印象に残った。

2日目も同じ分散会に参加した。『ぼく甘えてました～寄り添い、支えていく中で、成長していくタケシ～』の大阪市立長橋小学校の報告では3年生のタケシさんに寄り添い、日々の葛藤や成長していく様子が話された。その後の討議では、肯定的な考えや違うアプローチもあったので

はと各地の実践を基盤としたいろいろな視点からの意見が出され、コロナ前の大会の“熱さ”が戻ってきたようだった。この大会は多くの刺激がもらえるあったかい場と改めて感じ、報告者のみなさんや準備・進行など開催に努めてくださったみなさんに感謝しながら会場を後にした。

●愛知県人教、NPO法人リトルウィングからの自閉スペクトラム症の娘さんへの支援、居場所作りについての報告を聞いた。幼少期から支援学級の配置や不登校、高校中退、障がい者福祉サービス・・・さまざまな状況を経て今、市役所庁舎の飲食店の運営に携わっているとのこと。そのままの自分と仲良く活動できる人たちと一緒にいたい、そこが私たちにとって居場所なのだ。これからも居場所は必要で、障がい者が安心して暮らせる、困ったことを助け合える町づくりに向けて地域の方々と共に、活動していきたいと思っているという報告だった。居場所を求めて、親子でいろんな経験をされ、強く生きていらっしゃることに拍手をおくり、私にもできることがあれば地域のひとりとして支援できたらと思います。・・・

●11月25日午後から第4分科会第1分散会に参加した。前半は島根県吉賀町総務課の方からの多文化共生の実践報告であった。15年ほど前から町内事業所における技能実習生の受け入れに伴い、外国人住民が急激に増加し始めた。2020年4月、町の施策として明確に「多文化共生」が掲げられた。外国人住民に直接、困りごと悩み事を聴き取り、寄り添うために、外国人住民対象に日本語教室を始められた。また、役所内において職員対象に「やさしい日本語」の研修を実施したり、幅広い住民を対象に「日本語パートナー入門講座」を行ったりして、積極的に行政の方からさまざまな手段、方法を駆使して外国人住民にアプローチし交流を深める施策を進めて行かれたのは、学ぶべき実践であると思った。

一方、会場からの質問、意見の中で3K労働の人手不足を低賃金で補う手段としての技能実習という在留資格の問題性を指摘する声があった。現在マスコミ等で指摘されているが、今後、当該在留資格の見直しが予定されていると聞く。制度改善、見直しの方向に注意深く視線をむけていくべきであると思った。

引き続き後半は、大阪市生野区のNPO法人「IKUNO・多文化ふらっと」からの報告を拝聴した。戦前より在日コリアンの集住が進んだ生野区において、現在、さらにその他の外国籍の方も多く住むようになってきており、外国籍住民の比率が全国1位とのことであった。少子化の流れが進み、大幅な小中学校統合が推進される中、廃校となった小学校跡地を利用した先進的な多文化共生の取り組みの実践報告であった。そこで展開される「いくのコーライブズパーク」（略称：いくのパーク）の活動は、災害・避難所機能、地域コミュニティ機能、多文化・多世代の新しい学びの機能など多方面にわたっている。学習サポート、子ども食堂など、格差と多文化の溝を埋める地域をまきこんだ活動には学ぶべきものが多くあったと思う。その中でもっとも感銘を受けた言葉を報告文の中から抜粋再掲してこの感想文を終える。「国籍や民族などの出自の違いや家庭環境の格差が、教育格差につながり人生の選択肢を狭めることにつながってはならない」

●今回の研修では改めて自分の人権意識を見直す機会となりました。特別報告の李先生の報告では自分の生い立ちの中で、自分のルーツとポジティブな出会いができた。だからこそ、つらい時に立ち上がる力がついたと言われていました。そんな力を教育の場でつけてもらったので自分も教師という道を選び、ありのままの自分で過ごせるクラスを作りたいとも語られていました。目の前の子どもたちを教える、また教えられる関係だけでなく、同じ社会を生きていく仲間といる視点での関係づくりを大切にしたいという言葉が印象的でした。・・・現在、差別は見えにくくなり、まだまだ形をかえて続いています。目の前の差別を見ないふりをするのではなく、しっかり見つめ、自分がどう向き合うかこれからも考え学んで行きたいと思いました。

●久しぶりに全国大会に参加し、今もなおある差別のこと、子どもを取り巻く環境や見えてきた人権課題について学ぶことができました。教育、保育実践を聴く中で、〈差別の現実から学ぶ〉意識が薄れてはいないか、自分自身を問い直したり子どもが自分らしく生き、自分の思いが出せるような取り組みや関わりや実践していく大切さを感じました。知っているだけで終わらず、学び続ける、知ろうとすることで新たな気づきや人権について改めて考える機会を得ることができました。

●このような会の時、いつも教材に使えそうなもの、という視点で、他の先生方がどのような取り組みをされているのかという所に重点を置きがちだったので、今回はせっかくの全国大会だったこともあり、地域の声をきいてみたく第4分科会に参加した。当たり前だと思っていたことが、他の地域では当たり前になっていない現状や、また逆もあり大変刺激を受けた。少数派で他の県で頑張っておられる熱い思いをもった方々の話を聞くにあたり、学校と社会をつなぐ「学社連携」という点では、自分事として立ち止まって考えさせられた。

川西市に世話になり20年がたち、ここはこうだから、と部落差別についての学習に自身で線引きをしていないか、差別意識があるのではないか、など自問自答しながら帰路についた。

●初めて全国大会に参加し、第3分科会「進路・学力保障」で2本の中学校の報告を聞きました。・・・一人ひとりの生徒に寄り添い、情熱に粘り強く関われておられるなと感じるとともに、川西市の教育にも広げていければと思いました。また、「相手と同じ土俵に立って一緒になって考えて『私はね・・・。』と話せるようになった自分がいることに気づいた。」というお話がとても印象的でした。

●明石での研究会に2日間、参加しました。・・・明石市においては、2000年より市内13中学校区に1名ずつ校区内に在住している非常勤特別職員を配置し、地域における自治会などの人権研修会を推進し、指導助言を行い、地人協が組織的かつ効果的に運営されるよう事務局に協力しているとのことでした。また、小学校区（28）に2名ずつ人権啓発員を置き、連携して研修会などを実施しているそうです。予算面など大変なこともあるとのことでしたが、地域で人権の啓発を推し進める上でこのような方がいてくれたら随分助かるなあ・・・という思いで聞いていました。

●久しぶりの全国大会はどの分散会も熱心に討議がなされていたようです。報告は学校関係はもちろんのこと、行政やNPO法人などさまざまな立場のかたがされていました。私が参加した分散会でも意見や質問がとぎれることなく活発に行われ、川西市からの参加者も発言されている姿をみて嬉しい気持ちになりました。地域によって課題や取り組み方法はさまざまであっても、相手を理解し、よりよい社会を作ろうとしている人がこんなにも多くいることが知れ、勇気をもらった2日間でした。

■全国人権・同和教育研究大会とは・・

公益社団法人　全国人権教育研究協議会は、「差別の現実から深く学び、生活を高め、未来を保障する教育を確立しよう」をテーマに、全国各地で取り組まれている人権・同和教育の実践を交流し、学び合うため、毎年開催しています。

すぐれた実践には　確かな出会いがある
すぐれた実践には　感動がある
すぐれた実践には　人間を変革させる力がある

先達の志を受け継ぎ　未来に繋げよう
「つなぐ　かがやく　ゆめひらく」
だれ一人取り残さない社会の創造をめざして
ともに歩みを進めよう　人権文化の構築に向けて

第74回全国人権・同和教育研究大会
大会宣言より（抜粋）

人数制限がなくなり全国から多くの方が参加され熱心な討議がなされました。
刺激を受けたり学んだりされたことを、川西市での取り組みに繋げてほしいです。（事務局）

現地人権学習会

龍安寺入り口

京都コース 12月14日（木）

龍安寺と立命館大学国際平和ミュージアムに行きました。桜が丘・川西・多田東・緑台・陽明・けやき坂・東谷小校区人権啓発推進委員のみなさん28人が参加されました。暖かい日で、龍安寺の石庭横の縁側に座るとぽかぽかとしていました。しかし、美しい石庭を拝見していると、当時の河原もの（かわらもの）と差別され、作者不明とされている庭者たちの無念さが伝わってきました。

リニューアルされた国際平和ミュージアムは資料が見やすく展示され、また、ボランティアの方々の語りで、歴史の中の人々の暮らしに目を向けさせられ、見学者が自ら平和について考えられるよう工夫されていました。

～参加者の感想より～

◆戦争は恐ろしく、何も生み出さないどころか本当に多くの方が生きることに必死という生活をされて、今の日本の平和があるのは当時の方々のおかげだと痛感しました。・・・日本の軍隊さんは、日本魂を持って日本のためにと命をかけられた印象を今まで持っていましたが他国からすると、ひどい扱いを受けたことになり、かなりひどいことをしてきたことを知りました。それぞれの立場、国においてそれぞれの正義や想いがあり戦争という命や土地、権利の奪い合いでは憎しみしか生まれないですね。・・・今日の展示の辛い内容を見て、許せない、やりきれない、なんとも言えない気持ちです。・・・

◆龍安寺　70坪強の庭に差別を受ける側の心を閉じこめた思いがあることを初めて知りました。苔と石庭の美しさ、多分庭をこれで表現したのは例に見ません。

◆龍安寺　何度か行った事があるのに人権として差別に関わりのお寺だとは思っていなかった。（知らなかった）今回の研修で龍安寺の見方が変わりました。国際平和ミュージアムは、階下のスクリーンでの動画でストリートチルドレン、ゴミ捨て場でゴミを拾う子どもたちの姿に、子どもは平等でなくてはならないと心から思うとともに恵まれた日本の子どもたちに世界の現状、平和のありがたさを少しでも感じてほしいと思いました。平和は当たり前のものではない、過去の大きな犠牲によって成り立っています。・・・世界中の子どもたちが笑顔で生活できる時がきますように。

龍安寺の石庭

◆龍安寺の石庭のようなすばらしい物を造り出す人々が差別されていたことが驚きです。人間とは、差別をするためにどのような理由でも見つけ出せる悲しい生き物なのだと思いました。国際平和ミュージアムを見学して、一番強く感じたことは「教育の大切さ」です。素直な人ほど教えられた事に忠実になるのだと思います。「人を傷つけない」「相手の人権を大切にする」小さな頃からこれらのことを教え考える力をつけることが必要だと思いました。

◆リニューアルされて大変わかりやすくなったと思う。熱心な解説でうなづくばかり一通りではとても時間がない。出直したいくらいだった。・・・

◆国際平和ミュージアムのボランティアさんが「戦争がなければ平和でしょうか？平和に向けて展示を見ながら『わたし』にできることを考えてみましょう。」とのあいさつをされ、戦争＝平和　と思っていた私は少し考えてしまいました。年表、展示を見学する途中で胸が締め付けられるようにしんどくなって、3回位椅子に座って休憩をしてからでないとすすめませんでした。・・・平和のために大切な４つの自由とは、信仰の自由　言論及び表現の自由、欠乏からの自由、恐怖からの自由・・・これらから自由になり尊厳を持って生きられる社会を目指すという考え方です。安全で安心して暮らしていける。誰もが行きやすい社会になるように身の回りの人権課題に向き合い、考えることが「わたし」にできることかなと思いました。

国際平和ミュージアム
火の鳥

◆「銃後」という言葉を初めて知りました。国家の最末端として隣組・自治町内会など互いに監視しながら戦時中の生活を送っていた。「助け合い」というもとに、人間関係に悩まされながら子育て生活を送っていたことを想像した。・・・年表をたどっていくと、人類は明らかに平和への道をたどっていると思う。偏った民族や国の目線ではなく、大家や事実に基づいた資料がたくさんあってとても学びになった。

岡山コース　12月21日（木）

歴史館にて

国立療養所　長島愛生園に行きました。久代・加茂・川西北・明峰・牧の台・北陵と人権サポーターの方、27人が参加されました。

そこは1930（昭和5）年に国が設立し、ハンセン病という感染症の患者さんの療養場所としながら、社会との隔絶をしていた施設です。その後、治癒ができるようになってからも、1996（平成8）年まで隔離政策は続きました。病気に対する偏見や感染への恐怖、誤った知識のため本人はもとよりその家族も差別を受けていました。今では感染者が一人もいないにもかかわらず、今なおここで暮らしている人もおられる施設です。

～参加者の感想より～

◆・・・無知が招いた間違った政策の為に、取り返しのつかない残酷なことを人が人にしてしまった・・・そしてそれを改めるのには膨大な時間がかかってしまう。人間は過去から学ぶことができるはずなのに、どうして同じような過ちを繰り返すのか、・・・人権学習を続けて行く中で答えがみつかるといいなと思っています。

◆皆さんと一緒に現地を見て、ガイドさんの心のこもった説明をきくことができたことに、本当に行ってよかったと思いました。・・・当時の日本社会の偏見・差別国の歴史に腹が立つ感情は出ましたが、人権の学びはまず“知ること、学び、感じ”そして伝えていくことが大事・・・これからも人権の学びを続けていきたいと今回もつくづく感じました。・・・

学芸員さんによる説明

◆初めて参加させていただきました。ハンセン病という病名は聞いたことがありましたが、詳しく知らず、その背景にどんな情勢だったか今回の学習会で知ることができました。初めに感じたことは、コロナが広がった時の状況と似ているなと思いました。感染した人は隔離され、消毒され、宿泊施設で療養・・・まさにハンセン病患者と同じ扱いだなと　コロナに感染した人に対しての接し方、後遺症で今でも辛い思いをしている人たちへの対応を、ハンセン病患者たちの経験を通して、今後も差別をなくし一人ひとりの人権を尊重し、子ども世代へも伝えていかないといけないと思いました。・・・是非、子どもたちにも愛生園のことを伝えていきたいです。

◆非常に有益で大変勉強になりました。学芸員さんの説明や解説もわかりやすく話され心に強く残りました。・・・ハンセン病との出会いは1974年「砂の器」の映画でした。今でも邦画で一番印象に残っています。今回も久しぶりに感動しました。バス内のDVD上映も非常にいいと思います。・・・

◆何度も参加していますが、今回は特に新しい研修センターに触れたこと、素晴らしいガイドさんの熱量を感じられたことが大きな収穫でした、苦しく悲しい差別の歴史の中、一生懸命生き抜いた方々、誰かの為にと闘い抜いた方々との出会いは人間としての根幹の優しさと強さを確認できて感動しました。・・・

◆久しぶりの人権で岡山に来ました。やはり時間がたっているといろんな物が新しく変わっていました。今回のお世話になったガイドさん、今まで聞かなかった新しいことをたくさん教えていただきました。以前きたときは、100名ほど入所者がおられたと思いますが、今88名だとお聞きしました。考えさせられる事が多い研修でした。

美しい海（瀬戸内海）

◆私自身ハンセン病の知識は戦国武将の大谷善継や映画「砂の器」での世相、誤った理解ときびしい差別という浅い理解しかなく、かねてから岡山の愛生園には行ってみたかった。・・・現地を訪れる前にバス内でのDVD学習が大変勉強になり、現地では歴史館の資料、学芸員さんの説明で深く知ることができた。以前の罹患者やその家族への「差別された苦しみ」を知り、閉鎖的な心のおろかさを感じ、今に生きる自分はどうなのかを問い、身の回りにある差別事象や人権問題への関心を高め続けたい、高め続けねばならないと、改めて肝に銘じた。

多くの市民の方に参加していただき２箇所の現地学習会が行えました。実際に現地で見ること、他の方と一緒に学ぶことは互いの感じ方を伝え合うことができ大変有意義だと思いました。参加してくださったみなさん、お世話いただいた校区人権啓発推進委員長さんありがとうございました。（事務局）

お知らせ

川西市子どもの人権オンブズパーソン年次報告会2023

「子どもの "いま" と "明日" を考えるフォーラム」

日時：3月23日（土）13:15～16:45
会場：アステホール（アステ川西6階）
内容：年次活動報告とシンポジウム
定員：先着150人（当日直接会場へ）

〈問い合わせ〉
子どもの人権オンブズパーソン事務局
電話:072-740-1235

川西人権協版 かわにし人権ブックレットの紹介

※在庫があります。その他はホームページに記載しています。

【2022年度】VOL.27 インターネットの部落問題 ～「無関心」でいられても「無関係」でいられない～
財団法人「反差別・人権研究所みえ」 常務理事兼事務局長 松村 元樹
【2021年度】VOL.26「ともに生きるために大切な人権意識」 わたなべメンタルクリニック 院長 渡邉 純
【2019年度】VOL.25「今日から はじまる 人権学習」～子どもが安心できる地域・家庭・学校づくり～
大阪教育大学教職教育研究センター 佐久間 敦史
【2018年度】VOL.24「目からウロコ!人権への気づきと実行」～みんなが笑顔になるために～
三木市人権・同和教育協議会 春川 政信
【2017年度】VOL.23『部落差別解消推進法』が成立 その意義と課題について 友永 健三
【2016年度】VOL.22 人権の世間をつくる 向き合うからいっしょに取り組むへ 奥田 均
【2015年度】VOL.21 出会いは心の光 ～川西緑台高等学校放送部制作「視えるということ」とともに～
落語家 桂 福点・県立川西緑台高等学校放送部 薄井 真晃
【2014年度】VOL.20 ありのままの自分を生きる 金子（仲岡） 旬 ※現在は弁護士

【編集後記】

コロナ禍が収まったかと思ったら、さまざまな課題・問題が起こっている。ウクライナとロシアの争い、イスラエル近隣での紛争、権力者が正義を振りかざし弱い者が犠牲となっているように見える。その終わりが見えない争いの中、今も苦しんでいる人がいる。

日本では、ようやく性被害者の声をマスコミが取り上げたのはよかったが、今まで見て見ぬふりをしていたマスコミも加害者のはずなのに、手のひらを返したように世論を味方に大きな勢力をつぶしにかかっている。新たな被害者は出ていないだろうか。

政治家も、少子化や日本全体の未来を本気で考えて動いてくれていないように見えてしまう。でも選んだのは私たち。私たち大人に責任がある。

もやもやと考えていたら、能登半島の地震。阪神淡路大震災を思い出すような火災、そして津波。そして被災地へ向かうはずの海上保安機と日本航空機との衝突事故。

ニュースを見るたびに辛い気持ちになったり、怒りがわいたり、感動したり、自分の周りの平和に感謝したり・・・。

そんなことを思っていたら、今自分の目に映っているものの本質を見抜く目を、人権感覚をとぎすまし、偏った情報に流されることなく、「おかしいなあ」と気づける心を持たなければと強く思うこの頃です。（事務局）